愛板

愛知県板金工業組合
名古屋市昭和区北山町3-8-6
電話732-1226
発行 広報委員会

全国板金業者大会開催!!

――愛知県板より48名参加――

於・山形県立体育館

愛知県板金工業組合では6月16日にみちのく「山形県立体育館」で開催された第40回全国板金業者大会に48名が参加した。

例年全板大会は5月に開催されるのだが、今大会は山形県の名産のさくらんぼの最盛期に合わせて6月になった。当日はどんよりとした梅雨空で山形は雨の予報9時50分発仙台行きの飛行機で雲上の人となり1時間で一っ飛び。名古屋よりちょっと小さめの仙台空港へ着いた。太めで可愛いガイドさんの案内で観光バスへ、福島からきたというガイドさんはズーズー弁ではないが節々に東北なまりが聞かれる。会場まで約1時間とのことでガイドの合間に名古屋弁の講習会が始まった。私たちが東北弁が難しいように東北のガイドさんには名古屋弁がとても難しいようだった。

会場に着く頃には式典が始まっているから昼食はバスの中で済ませることになった。街角では背中にyamagataと書いたそろいのジャンバーの組合員が会場への案内をしてくれた。今大会も全国から4000名の参加があり会場は空席がないほどのこみようであった。会場には前日の専門委員会、全体会議、前夜祭、に出席の平野理事長、村上副理事長に迎えられ席に着く。

表彰式では昨年組合理事長を退任された愛知県板の日比野定雄氏に感謝状が、2月に岡山県で開催された全板連青年部全国技能競技大会にみごと4位入賞の高柳三郎氏には表彰状と盾が贈られました。また功労者表彰にはつぎの5名の方が表彰されました。

今井　久由（江南）
原田　稔（岡崎）
岡野　光夫（岡崎）
武藤助太郎（中川港）
原田　茂俊（知多）

一方、展示会場にあてられた体育館駐車場には、機械メーカーや工具メーカーがたくさんの商品を展示していた今大会もプラズマ切断機の出典が多く見られた。また名産のサクランボの即売も行われていた、高級品とのことでキロ1万円にはちょっと驚いた。3時半ごろ会場を後に1日目の宿「上山温泉ホテル古窯」に向かった。温泉に漬かり汗を流した後宴会が始まった。早川専務より参加者全員の紹介があったあと、地元の花笠踊りを見たりカラオケで楽しい一夜をすごした。

2日目は残雪があちこちにみられる蔵王山に登り頂上のお釜を見る。お釜とは火口湖のことで湖の色が七色に変化して綺麗な湖とのこと、私たちがみた色は緑色であった、この季節には雨とかきりでなかなかお釜がみられないそうだが我々は心掛けが良くて素晴らしいお釜を見ることができた、1600メートルの蔵王山を後にバスは山形県から宮城県へ途中昼食と休憩をとり東北自動車道を2時間北上、岩手県は平泉の中尊寺に着く、ここには金色に輝く国宝「金色堂」があり東北地方の大豪族藤原氏がまつられている、北上川を見下ろす高台の中尊寺には義経も立ち寄ったことがあり衣川五条橋の上で弁慶が義経を守り百本矢を受けて仁王立ちになった話は有名である。

2日目はバスに乗っている時間が長かったがバスガイドも驚くほど皆が元気で、大型クーラーで冷やしたビールもすぐになくなるほどで楽しい(白であった。この日の宿は松島湾を見渡せる「ホテル大観荘」である。

梅雨の真っ最中天気予報は雨、にもかかわらず我々はついている。今日は朝から晴れ、斎太郎節で歌われている瑞巌寺を見学する、前はうーみサーヨー後ろは山で、と歌われているように門前に松島湾が広がる、ガイド嬢?…ガイドおばさんの説明を聞きながら見学したのだが説明をしているる間に先へ行ってしまう人がいるのでおばさん日く「私より先にいかないでくださーい」と何度もいわれて本堂に入り楽しく見学をした。

瑞巌寺門前より松島めぐりの船に乗る、一階は一般船室で700円出すと二階の一等船室さらに1400円出すと三階の特別室に入れる、このさい奮発してと特別室に乗る。見晴らしも良くビールを飲んで満足々。たくさんのカモメも歓迎してくれ島めぐりを楽しんで塩釜港に下りる。

昼食の後安産の神様の本家『塩釜神社』に参拝…男だから御利益はないと思うけど、楽しい思い出を一パイ作り仙台空港へ、帰りのバスでは飛行機が飛べないのでは?とおもうほど強烈な雷雨にあったが午後六時頃無事名古屋空港に着いて解散した。

今回の旅行を振り返って思うにとにかく飲めた、バスの中、ホテルの宴会でもしっかり飲ませて貰えた。

それと次のことは毎年言えることだが主催県が楽しいアトラクションを企画するのだが見ることができない、それと展示会場がゆっくり見ることができない。このことはせっかく遠くへ来たのだからと観光がゆうせんするからやむをえないかもしれないがちょっと残念のような気もする……。

夜の観光（華街を含む）は冒険隊長と自他ともに認める我らのボス斎藤広報委員長の報告があると思います。

報告　鷲見

愛知県板金工業組合
中国経済視察団

報告⑦

中国視察報告も今回をもって終わりにさせていただく事にする。まだまだお話したい事はたくさんあるけれども、視察より一年余り過ぎた事などから、ひとまず区切りをつけ機会をみながら見聞記を掲載したい。

一夜明けた上海は早朝より上天気である。愛板一行をのせたバスは上海駅へ向う。中国旅行最後の予定地、「蘇州」へ列車で移動するためである。

上海駅へ着いてまずびっくり。バスが一行を乗せたまま直接ホームへ入ってしまうのである。後日、上海動物園に行った時も、バスは園内に入ってしまったが、これらは外国人団体旅行客だけに認められたものなのかも知れない。

広い駅内やホームで見学したり写真を撮ったりし合っている所へ、中国の英雄「周恩来」の銅像を先頭車につけた列車がホームへ入って来た。

そこで上海ガイドのリユウさんが早くバスに戻るようせかすのだ。又別のホームへでも行くのかと思っている所へ、列車の乗客が降り始めた。ここで二度びっくり。荷物を両手に持った人、肩にかついだ人、軍服姿の若者、おしゃれ着の若い女性など、どこにこれだけの人が乗っていたのかと思うほどの人々で広いホームはうずめつくされた。ガイドが早くバスに戻れと言った訳がやっとわかった。あのままホームに居たら、乗客と一緒に街へはき出される所だった。

中国の客車は硬座車と軟座車があり、軟座車は、日本流に言えばグリーン車なのだろう。又列車は日本の列車より一回り大きく、席は相向いに作られている。軟座車には向い合いの席の真中にテーブルが据え付けられ、席間は広くゆったりしている。しかし軟座車とはいっても、作りはあまりよくない。日本の私鉄やJRのローカル線用の方がよっぽど乗り心地はいいと思う。

南京に向け出発した「周恩来」号は田畑や運河など田舎の風景の中をのどかに走る。発車して間もなく中国茶のサービスがあり、掛軸や絹織物、テーブルクロスなど車内販売が始められ、お金持ちの愛板一行に盛んにすすめ、商魂たくましさをみせる。一時間半近くで列車は蘇州に到着した。駅前広場は人通りも多くよく整備され、地方都市の表玄関らしい様相をみせている。

蘇州での案内説明は、若い女性ガイド嬢である。なかなかの美人で日本語もナマリがなく上手に話す。

蘇州は中国式には「スーチョウ」といい、杭州と並ぶ景勝の地で、「東洋のベニス」と呼ばれている。町の内外には人工の運河がはりめぐらされ、美しいプラタナスの並木や橋、塔などが彩りを添えている。絹織物の里として古くから知られ、伝統的な手工芸品は中国でも人気が高い。特に解放後考案された両面刺しゅうはすばらしい。円型や扇型の木枠の中に絹が張られ、表から見ても、裏から見てもまったく同じに見える猫や金魚の可愛いい姿の刺しゅうの技術はみごとである。

団員のG君は、「蘇州刺しゅう研究所」の展示販売コーナーにサンプル展示してあった、縦一m横一・二m位の「衝立」をウン十万円で購入することにした。紫檀の枠に手のこんだ彫刻をほどこし、水色の絹に水藻の間を泳ぐ金魚をあしらった作品は工芸品と言うより美術品と言った方が正解だろう。

値札は五十万円であったが日本での値段となると五倍以上になるとの事であった。さすがお金持ちの日本人である。

一ケ月平均七千円位の給与の中国の人から見れば約六年分位の一万円札をポケットからとり出して支払いをする日本人にびっくり仰天。たちまち人だかりが出来てしまった。

蘇州での名所は沢山あるが「寒山寺」「虎丘」「留園」を訪ずれた。

月落烏啼霜満天
江楓漁火対愁眠
姑蘇城外寒山寺
夜半鐘声到客船

唐代の詩人張継の七言絶句「楓橋夜泊」に詠まれた寺として広く親しまれている。

又、寒山寺には一回で十年命がのびる鐘楼での鐘つきは有名で毎年、「大晦日」には日本から千名余の人々が参拝に来るとの事である。

寺の周辺には運河があり、川岸の柳の大木と石の太鼓橋の下を行く手こぎの舟が、何とも言えない、のどかな中国の風景をかもしだしている。

続いて訪ずれた「虎丘」「留園」も共に歴史を感じさせる古い建造物がよく保存され、遠い昔日を思い起させ、旅情を満たせてくれた。

その夜は蘇州飯店に一泊、手工芸品や掛軸などを並べた店や食品店などでショッピングをし、ホテルの部屋へ変人仲間が集まって中国最後の夜を楽しんだ。

その後、上海へ戻り午後のフライトで香港へ移動の予定であったが上海空港で又々トラブル。上海ガイドの懸命な努力で広州経由で夜おそく香港へ到着。

今回の中国視察は最後まで中国民航にふり回された日程であった。翌日、香港でのショッピングを済ませ、帰国のため乗り込んだ日航のスチュワーデスの笑顔にほっとした。

そして改めて、世界の先進国であり、経済大国である日本を再認識した視察旅行であった。

広報委員長
斉藤　充昭

中板協

第10回通常総代会

於　福井市

中部板金工業組合協議会（中板協）の第10回通常総代会が、六月二十二日午後一時より、福井市JR福井駅ステーションビル3F会議室にて、各県総代三十八名が出席してなごやかに開催された。

愛知県板からは、全板大会直後の総代会のため、平野理事長はじめ村上、斉藤両副理事長、早川専務の四人だけが出席した。

開会に当り、臼井福井県板理事長より歓迎と協力の挨拶に続き、若林協議会会長より、好調の建設業界にありながら今一つぱっとしない板金業界の今後がいかに乗り切れるかむずかしい時期にある。各自が企業意識をより強く持ち進めるため、総代各位の建設的な意見をお願いし中板協の結束をより一そう固いものにしたい。と要望された。山内福井県板副理事長を議長に選出し議事に入る。

◎一号議案　62年度、事業報告、収支計算書承認に関する件

◎二号議案　63年度事業計画、予算書案審議の件

事業計画にもとずき総務委員会、訓練委員会、経営委員会、厚生委員会、技術委員会、保証委員会、各委員より提案説明と予算書案の審議がなされた。

◎三号議案　規約一部変更の件

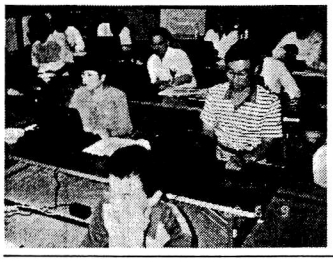
以上提案された案件が全員一致で承認され、午後三時、岐阜県板桑山理事長の閉会のことばで無事総代会は終了した。

懇親会に移る間の時間を利用して、愛知県板早川専務より、来年名古屋で開かれるデザイン博に、出品依頼と前売券の各県板取扱い販売の協力をお願いし、資料やタイピンを贈った。

若林会長の乾杯で始められた懇親会も終始にぎやかに、又なごやかな歓談がつづき、午後四時閉会となった。

支部だより

先ず活動はスポーツから、鍛えよ頭脳と身体から！



当知多支部は年初の事業計画に基き、青年部と連携を保ち乍ら家族ぐるみのボーリング大会を皮切りに、頭の体操即ち、ワープロの研修会を催した。当地区は会員及部員の方々には非常に関心が深く青年部長の配慮により、メーカーより機械の貸用を受け、尚且つかわゆいこちゃんのトレーナーの出席を迎え、黒板を前にして「半田のかわいいこちゃんはテニスが好きだ」などとキーをたたく音、それぞれの受講生は幼稚園で先生に手を取って教えて頂くような研修態度、若い女性のトレーナーは終始笑顔での対応、受講生はワープロの画面に吸いとられ、雑音にも耳をも傾けず一生懸命で好感がもてた。第二回の研修会は七月の初めと聞いている受講生の今後の健闘を祈りつつ乞う御期待。

さて当支部は恒例になっている献血活動が去る6月20日に半田市内の武豊屋㈱内にて行った。企画部一同は色々なアイデアを考え、会員へのサービスに賢明に力を注ぎ、注目をあびた。参加者にはもれなく粗品、献血者の中には400cc提供者も多く大成功を迫し全体で10回目を提供した方も多く赤十字社からも景品をも頂いた方も数人御協力ありがとうございました。

最近特に県板として採用した共済制度の導入に関して説明会を催し理解度を深めた。

時に、会員の末端迄終始徹低するために再度地区別に説明会を催す計画である。今後の進行の御期待を乞う。

知多　沼澤

玉かけ・移動式クレーン　講習

◇　受講者多数　◇

愛知県能力開発協会主催の玉かけと移動式クレーンの講習会に、愛知県板金総合職業訓練協会の窓口を通して一宮板金組合員24名が受講した。5月29日に愛知トヨタショールームで玉かけの学科講習を9時から17時まで受講、6月4日には、移動式クレーンの学科を9時より17時まで東郷町商工会館で、6月5日玉かけとクレーンの実技を東郷町の前田製作所の工場内に於て午前と午後に別れて受講した。各職種も合わせて300名と多数の参加の内一宮地区もこれ程の参加者があったのは、今までにチャンスが無かった事もあるが、時代の変化の一つでこの地区にシェアーの大きい問屋さんがルーフ瓦棒、カラーベスト等を現場の屋根の上にクレーンで上げるサービスを行っているので従業員の安全管理を含めた対応が必要となった事も大であると思う。

一宮　佐藤

松下電工㈱三重工場　見学

一宮板金青年部

6月13日一宮板金組合と青年部の年中行事の一つとして三重県伊賀上野のナショナル工場を見学した。

当日は雨あがりで職業柄欠席者も出て25名の参加者であった。

一宮をバスで9時に出発して11時には山の中の工場団地内の現地に着いた。

会議室において挨拶や商品説明、質問など昼食まで続け、後は屋根材と外装材の加工工程を見学した。

又、工場内にあるICプラザでは住宅建築におけるハードとソフト情報の提供と協力できるシステムなど説明もあった。

この見学会では生産ラインにおける細部はともかく、施工する者として最底限は理解できたと思う。

研修会を終えて印象に残ったのは、講演の中でこれからの職人は「多能工」である事が望ましいという内容の話があったが、私自身をふり返ってみても波型スレートやダクト工事など含めて屋根、外装工事など色々施工して来たので他の業種のように転職や縮少する事なく現在があるのかもしれない。

大手の住宅メーカーは社内で職人を訓練養成し何十という職種を8職種位に少なくして合理化を計っていく傾向にあるというが、板金屋は建築業の中でも特に「多能工」であるが認識を一段と深めれば更に発展するかもしれない。

未来の職業訓

同じ職業を続けるなされど本業から放れるな。

一宮　佐藤

《新規加入者》

切り取って名簿に貼って下さい。

支部名	事業所名	氏名	〒	住所	TEL	FAX	1級技能士	2級技能士	指導員免許	2級建築施工技士	建設業許可	業種
稲沢	田口鈑金	田口悦男	492	稲沢市稲葉4丁目8-17	0587-21-7020	21-7020						A
小牧	城板金工業	下城貢	485	小牧市大字北外山1676-1	0568-75-2358	75-2358						A
一宮	イトウ金属工業	伊藤勇	491	一宮市丹陽町五日市場字屋敷85	0586-76-0045	77-1149				○		A
緑	白木鈑金	白木守	470-11	豊明市沓掛町荒井6-13	0562-93-8586							A
中川港	佐々木金属工業所	佐々木征四郎	454	名古屋市中川区福川町3-1-45	052-352-0525	352-0526					○	A
西尾→幡豆	高須板金	高須文平	444-04	幡豆郡一色町大字一色字東塩浜46	0568-72-7898		○					A

おしらせ

◎事務局の業務について

8月11日から16日までの業務は左記のとおり行いますので、よろしくお願いします。

8月11日(木)　午前中勤務
8月12日(金)　〃
8月13日(土)　休日
8月14日(日)　休日
8月15日(月)　夏季休暇
8月16日(火)　〃

連絡事項は
FAX　052—732—一二二七
※緊急連絡の場合は
理事長(自宅)　052—521—二三六八
専務理事(自宅)
○五六七六—七—三四七三
へお願いします。

◎名簿の訂正について

先般組合員名簿をお渡しましたが、何分にも多数の為間違いがあったことと存じます。

訂正個所がありましたら、支部長さんの所に訂正届の用紙がありますので、なるべく早めに組合へ届出して下さい。愛板へ順次登載します。

なお、相続等で名義が変更になる場合などは所定の手続きが必要です。組合事務局へ御連絡下さい。

編集後記

「サトーニシキ」「ナポレオン」これは何の品種名かおわかりだろうか。

六月十六日、全板大会の開かれた山形県の名産「さくらんぼ」の品種名である。

「サトーニシキ」は、佐藤さんという人が苦心の末、改良に成功した品種で甘味が強くなかなかおいしい。でも本当の「さくらんぼ」の味は七月始め頃から出かかる「ナポレオン」だそうで、果肉も多く味も一段と美味との事だ。

しかし、さくらんぼの値の高いのにはおどろいた。たかが「さくらんぼ」と思っていたが、はしりとは云え一kg五千円とはおどろいた。

ところで今回参加の四十八名の中の知多支部「変り者」数名。又又日頃の癖が出て、「知多探検隊」そして私は「知多探検隊長」のアリガターイ称を頂戴してしまった。

夜は宴会終了後、街へ出てスナックのママと仲よしになり、飲んだり歌ったり、夜中まで大さわぎ。

二日目も松島海岸の夜にあきたらず、塩釜の街まで足をのばして、貸切りスナックで大ハッスル。

朝は五時に起き出し、朝風呂の後、早朝の温泉街や島を歩き回り、昨夜仲よしになったタクシーの運チャン、佐々木さんに約束通り自家用車で塩釜の魚市場に案内してもらった。酔っぱらいとの約束を守って迎えに来てくれた東北人の人情に感激した。旅先での人と人のふれあいで今回の「みちのくの旅」も一そう想い出深いものになった。

50kg級のマグロがゴロゴロし、新鮮な魚貝類が並ぶすごく大きな魚市場は壮観そのもの。その魚市場で「知多探検隊」はビタミンC補給のため「トマト」を買い求めたのであった。

六月二十八日(火)曇
二一九号編集会議
委員　四名出席
午後五時終了　(S)